



令和 7 年 3 月 11 日  
午前 午後 9 時 56 分 受領

No. 1

議長	事務局長	係
		

令和 7 年 3 月 11 日

愛南町議会議長 佐々木 史仁 殿

愛南町議会議員 少林 法子

## 一般質問通告書

次のとおり通告します。

質問の要旨	答弁を求める者
<p><b>1. 外国人材等の活用と受け入れ体制について</b></p> <p>2024年6月、国においては外国人材を労働者として受け入れる「育成就労制度」を設ける法律が成立しました。県も積極的な外国人材の雇用を推進しています。</p> <p>愛南町でも、外国人国籍の住民は2025年3月時点で、174人（約1%）で、主に漁業、農業、介護サービス部門で働いています。人材不足の愛南町では、今後も外国人材や季節アルバイトが求められるため、質問します。</p> <p>(1) 農業では、各事業主が個別に外国人雇用をしています。それに対して、漁業は漁協が監理団体として登録することによって、外国人材雇用の仲立ちをし、手続き等スムーズに受け入れができています。農業分野においても、監理団体を設け、積極的に外国人材を雇用するお考えはないですか。</p> <p>(2) 外国人材の雇用では、どの業種も住居探しに苦労しています。廃校の活用など、住宅に関するお考えはないですか。</p> <p>(3) 外国人材雇用の増加は、多文化共生、異文化コミュニケーションのチャンスです。教育の分野で、国際理解に取り入れる構想はお持ちですか。</p> <p>(4) 若い外国人材が多くなると、地域での受け入れ体制が必要です。うまく共生できれば、地域の活性化にもつなが</p>	町長

ります。その点をどうお考えですか。

## 2. 若い女性が多い町になるために

～若い女性が出ていく要因にどう対応していくか～

町長は、昨年の出生数が50人で、少子化対策が急務であることから、さっそく4月から、保健福祉課内の子育て支援室を「子育て支援課」として組織し、新たな子育て支援事業を実施する施策を打ち出しました。スピード感のある対応に期待しております。

しかし、少子化の大きな要因は子育て以前にあります。それは、若い女性が地域から流出することです。若い男性より流出の割合は多いのです。

国を始めとする自治体が「結婚・妊娠・出産・子育て」の支援対策を行っているにも関わらず、なぜ地方からの女性の流出が止まらないのか。その本音は「そもそも働くところがない」「施策自体、地元に戻って子どもを産めという圧力を感じる」「人口減少対策で私たちの声は聞かれていない」「ジェンダーによる役割の固定観念があり、地方は女性にとって生きづらい」等があります。

(1) 町は、施策を立てる際、若い女性たちの意見を聞きましたか。

(2) 若い女性の町外流出への対応について、お考えはありますか。

## 3. 教育現場における働き方改革

近年、教員の心身の負担が増加し、国際調査でも日本の教師の長時間勤務は突出しており課題になっています。

2023年文部科学省公表では、精神疾患による病気休職した教職員数は6千人台で過去最多となっています。そこで、現在「働き方改革」として、勤務時間、学校が担う業務の適正化、部活動等の見直しがされています。そこで、お尋ねします。

(1) 町内の小中学校別平均勤務時間、過去5年間の精神疾

町長

教育長

患による病気休職者ののべ人数は、どうなっていますか。

(2) 教員は勤務時間中に 45 分間の休憩がとれていますか。勤務時間中に翌日の授業等の準備ができていますか。

(3) 働き方改革について、進捗状況はどうなっていますか。

#### 4. 魅力ある南宇和高校への取組

南宇和高校は地元で唯一の高校として、存続が強く望まれており、2022 年には高校魅力化プロジェクトがスタートし、学力保障と進路実現を目的とする南光叶夢センター設立によって、南宇和高校への進学率向上に一定の効果をもたらしてきました。

しかし、2025 年度県立高校入学志願者の状況をみると、南宇和高校普通科は定員 80 名に対して志願者 56 名、農業科は定員 40 名に対し 30 名でした。これは、生徒数そのものが減少しているため、町外流出を止めるだけでは限界にきていること、同時に、今後は、新たな魅力化を模索し、全国からの生徒を募る必要があることを意味しています。

そこで、お尋ねします。県立高校ですので、県や高校が主体かもしれませんが、南宇和高校の魅力化について町はどのような考えをお持ちですか。

教育長